



電柱に替わる地上機の模型でふさわしい設置場所を検討する関係者

中尊寺通り 設計着々

平泉 電線地中化で意見交換

県と地域住民が協働で世界遺産登録を目指す町並みにふさわしい道路づくりを進める県

道停車場中尊寺線（通称中尊寺通り）のデザイン設計が動き始めた。18日は電線地中化に伴う現地説明会を開き、両者が具体的なアイデアを出し合った。

中尊寺通りは、J R 平泉駅と中尊寺の月見坂を結ぶ1・4キロ。沿道には無量光院跡や柳ノ御所入り口がある。

同日は、道路デザイン検討会住民協働部会のメンバーや設計コンサルタント社員、県と町

職員らが地上機などの設置が検討される付近の住民宅を訪ね意見交換した。

15～17日の3日間は地区公民館などで住民説明会を実施。意見集

約した道路設計図面と照らし合わせ、設置場所を検討した。

自宅前に植栽が検討される平泉町平泉の主婦

は「説明会で丁寧な説明を受け意見も述べた。住民の声が生かされる素晴らしい通りになってほしい」と期待した。

最終的なデザインをまとめる大日本コンサルタントの高楊裕幸景観デザイン推進部長は、「住民主体の土壌が、良い通りにしようという官民の一体感を生んでいる。良い設計に仕上げたい」と話す。

岩手日報 2010年12月19日付
この記事・写真等は、岩手日報社の
許諾を得て転載しています